

「家がいいね」 第87号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2011. 8. 6

生き物の夏

稲の穂を、よくよく見ると白い花があります。お米が食べられるのも、この花のお蔭です。ありがとうと手を合わせました。赤茶けた穂は、長い台風風の風で、こすられたせいでどううか？ お米になるまで八十八の手がかかると言われますが、余計な手が入っても困るのですね。今年の夏は、早くに蒸し暑くなり、何か違和感がありました。ようやく蝉の声を聞き、本当の季節に合わせて出てきたんだと思いました。写真には蝉の代わりに、往診先での蝶に登場を願いました。鬼百合にたわむれる黄揚羽です。私には蝶が人の魂のように思える時があります。この蝶も、ひらひらと屋根を想い出深げに越えてゆきました。



『てふてふが1匹 韃靼(だつたん)海峡を渡って行った』 1行詩 安西冬衛「春」より

おひさまの会話には「間」がある

来し方を思い出しながら ゆっくり会話をします。過去は単一ではなく、思い出す所からの眺めにより、その姿を変える。過去は変わる。このドラマには、相手の言葉を待ち、沈黙も織り込んだるの進行がある。昔の人の時間には味わいがあったのだなあと思えさせられる。



家族ひとりひとりの当たり前の生き方を大事にしようよ。それは在宅ケアの中でも思うところです。

(写真はNHKホームページから引用)

夕暮れ時の情景

今夜は、宮川河畔での神宮奉納全国花火大会。夕なずむ堤防の道を、会場へ急ぐ人たちのシルエツトが、懐かしく美しく見えました。暑かったけど、いい日でしたね。花火も上がり始めました。

(7月16日、当院ブログから)



縁の家で お食事会

地元(新高地区)高齢者の会食会が、月1回開かれ、2回になっています。

民生委員さんと社会福祉協議会のご尽力です。独居の方の語らいの時間になって賑やかです。縁の家を、地元でも利用して頂き、嬉しい限りです。(写真は伊勢市社協ブログから)



「伊勢のホスピス、市民が考えよう」

医療といのちと市民をむすぶ試みを知ろう
9月10日(土) 夜18時半〜20時半
伊勢市観光文化会館 参加無料
講師・金田亜可根さん(岡崎市民)



エンディングノートの映画

えらいものですね。自分の父親の最期とエンディングノートを、見事に映画にした人がいます。11月に進富座で上映予定と聞きました。砂田麻美監督・是枝裕和プロデューサー
映画「エンディングノート」で検索し、HPあり。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>